

# NO！リニア

No. 5

2009年10月17日

J R 東海労働組合

リニア反対プロジェクト

## 東海道新幹線大規模改修のバイパスになぜリニアか？

### 大規模改修費1.1兆円の財源も不透明

### リニア建設どころではない！

J R 東海は、リニアの必要性の一つとして、東海道新幹線の老朽化による大規模改修におけるバイパスとしています。

確かに、東海道新幹線が開業して45年が経過し改修が必要です。しかしなぜ大規模改修のバイパスとしてリニアが必要なのでしょう。

東海道新幹線の大規模改修期間は「全国新幹線鉄道整備法」（全幹法）によって、平成30年から40年の10年間とされています。改修工事は、長期間に亘り東海道新幹線の運行を全面的にストップして行うことを前提にしているわけでは決してありません。

現在においても線路や道床といった箇所は、日々改修されています。大規模改修として列車の運行に影響を与える工事は、橋梁やトンネルの補修・取替え工事といったことが考えられます。国鉄時代に行っていた半日や1日程度運休して集中工事を行ったり、東京～品川間で代替線路を建設したように、区間を区切って工事を進めていくことは可能です。また、工事期間中は、東海道新幹線に接続する特急列車を走らせるなどの対応で輸送力は確保できます。

また全幹法によって、大規模改修の費用として約1.1兆円が見込まれています。そのためにJ R 東海は、平成14年から29年までの間に5,000億円を積み立てるとなっています。しかし残りの6,000億円の財源についてJ R 東海はなんら明らかにしていません。

J R 東海は現在、長期債務3.2兆円を抱えています。その上に大規模改修費として1.1兆円、さらにリニアの建設費として5.1兆円がのしかかるのです。一企業としての投資額の限界をはるかに超えています。